

|       |            |
|-------|------------|
| 材 料 費 | 477 473 圓  |
| 用 地 費 | 371 820 // |
| 事 務 費 | 75 494 //  |

4. 工 事 執 行 者 熊 本 縣
5. 計 畫 設 計 者 土 木 技 師 小 引 掌
6. 工 事 監 督 者 土 木 技 師 小 引 掌, 土 木 技 手 藤 木 正 雄
7. 施 工 方 法 請 負 西 松 組
8. 起 工 年 月 昭 和 7 年 10 月
9. 竣 功 竣 定 年 月 昭 和 13 年 3 月

## 木 山 川 改 修 工 事 概 要

(本文に就ては會員枅井照藏君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

### 1. 箇 所 名 並 び 工 事 種 類

箇 所 名： 自 熊 本 縣 上 益 城 郡 福 田 村 大 字 田 中  
至 同 縣 同 郡 大 嘉 村 三 郎 無 田

工 事 種 類： 木 山 川 並 び 赤 井 川 改 修 工 事

### 2. 計 畫 概 要

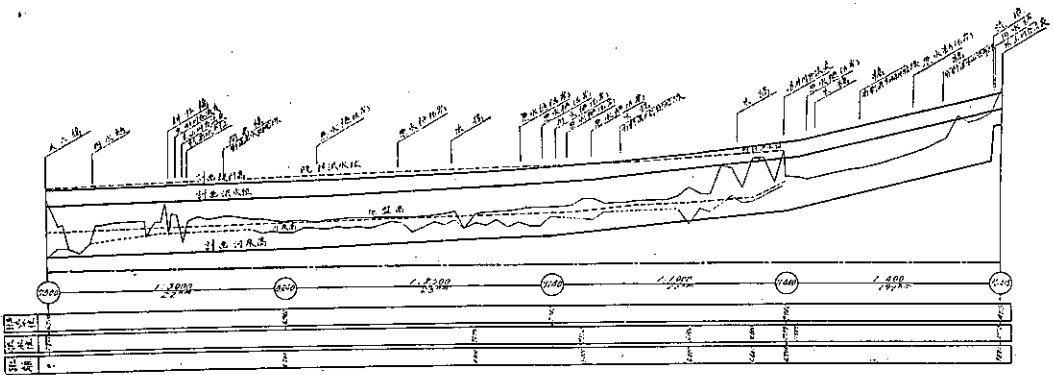
木山川は緑川支川加勢川の小支川にしてその源を阿蘇外輪山たる阿蘇郡久木野地藏峠に發し本改修終點より上流 2.5 km 迄は山間部を貫流し勾配亦急なりと雖もそれより約 1/800 の勾配にて改修終點に達す、以下河川勾配 1/1 500~1/2 400 にして比較的屈曲少なきも川幅は上流部に於て最大 50 m にして狭撐部と雖も 35 m 有するに反し下流部は 25 m 内外、最小 17 m にして一朝出水に際しては溢水するは勿論破堤又は缺潰隨所に起り赤井川沿岸一面を湛水數日に及ぼしめ被害甚大なり。

赤井川は木山川に並流し殆んど同一地點に於て加勢川に注ぎ勾配 1/1 500~1/2 500 にして流路の屈曲著しく蛇々蛇行し全く原始的河川状態を示す川幅も亦不規則にして最大 36 m、最小 10 m にして堤防として赤井橋前後約 1 km 間に貧弱なる土堤あるを除き他は殆んど自然に委せられ洪水時は嵩水河岸上 2~3 m に及ぶ處尠からず、洪水の都度護岸缺潰を來し尙兩岸には蘆、雜草等繁茂し土木工事を施したる處極めて少し、沿岸は水腐地夥しく洪水の都度本川の汎濫は勿論前述木山川の汎濫と共に滯水數日に及ぶ。然して改修區域内に於て新川、矢形川を合流せしむ、今これ等流域面積及び洪水量を示せば次の如し。

第1圖 木山川平面圖



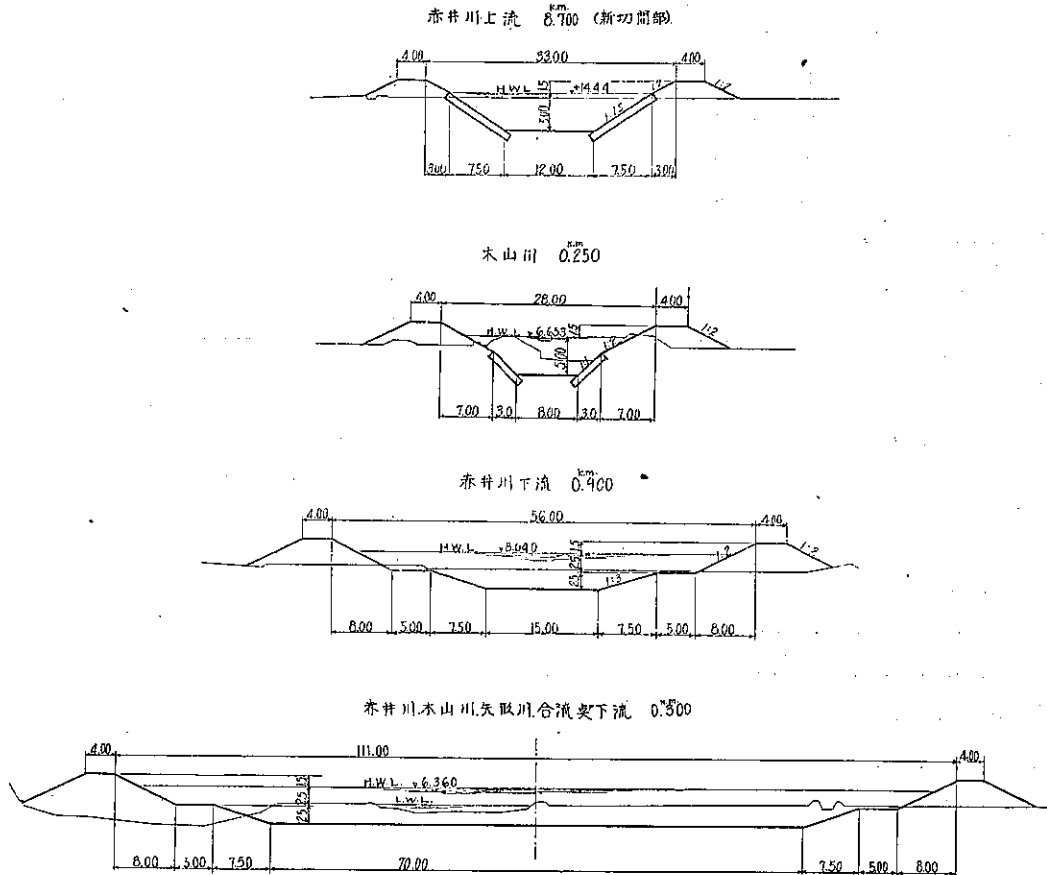
第2圖 赤井川縦断面圖



| 観測地点       | 流域面積 (km <sup>2</sup> ) | 洪水量 (m <sup>3</sup> /sec) | 摘要       |
|------------|-------------------------|---------------------------|----------|
| 木山川改修終點    | 74.8                    | 352.6                     | 計畫に對するもの |
| 赤井川上流合流地點  | 79.0                    | 360.4                     |          |
| 新川合流地點     | 95.0                    | 421.5                     |          |
| 矢形川合流地點    | 117.0                   | 453.8                     |          |
| 赤井川上流合流地點上 | 16.0                    | 105.1                     |          |
| 新木山川合流地點   | 154.0                   | 529.7                     |          |

|           |       |       |                    |
|-----------|-------|-------|--------------------|
| 加勢川合流地點   | 182.0 | 594.7 |                    |
| 矢形川合流地點   | 37.0  | 187.0 | 現矢形川下流             |
| 木山川下流合流地點 | 26.0  | 64.5  | 木山川上流附替地點より同下流合流口點 |
| 〃         | 101.0 | 417.1 | 現木山川               |

第3圖 横断面圖



計畫の目的は前述の如く一朝洪水に際しては一面湛水地帯と化し耕地に於ける稲作は不毛化し、且水腐地夥しきに依りこれを防止し乾田化し水害を除去せるにあり。然りと雖も現木山川は下流に到るに従ひ川幅狭少なるのみならずこれに架せらるる府縣道及び町村道の橋梁 11 橋、用水堰 10 箇所あるのみならず沿岸は本地方として最高位の地價を有し爲に多大の工費を要し然も赤井川に對しては新に改修の要あり、斯く兩川併用して改修する時は潰地を増し尙赤井川下流には木山川よりの避水防止の必要上樋門を設けざるに到るを以て上益城郡福田村大字田中地内に於て屈曲部水勢激衝箇所にして出水に際し數度切斷となりたる地點より分岐せしめ河川の附替をなし、新附替河川には洗堰を設け、現木山川に對しては平水量のみを取るる程度の樋門を設け下流灌漑用水及び水車用水取水の便を計り且つ一朝降雨出水に際しては右分岐點より下流に於ける集水區域内(右岸流域)の流量を呑み流通せしむることとし、分岐點より上流に於ける洪水量は全部新附替河川に據ることとし、耕地内最低部に沿ひ開切し赤井川筋赤井橋下流に於て赤井川と合流せしむることとせり。

尙木山川は前述の如く平時に於ては用水量のみとし洪水時に際しては分岐點下流々域に於ける出水量を併流するに留むとは雖も廣安村福富地岩より下流は河積尙不足するを以て補修することとし秋津村西無田に到り最下流取水堰より下に於て新附替河川（現赤井川）と合流せしむることとせり。

### 3. 工 事 費

|           |             |
|-----------|-------------|
| 總 工 費     | 1 193 000 圓 |
| 内 譯       |             |
| 勞 力 費     | 459 373 圓   |
| 材 料 費     | 328 303 "   |
| 用 地 費     | 233 878 "   |
| 機 械 器 具 費 | 52 146 "    |
| 事 務 費     | 119 300 "   |

### 4. 主要機械器具

| 品 名             | 性 能                     | 數 量   | 價 格<br>(円) | 製 造, 工 作, 販 賣 納 入 者 名 等 |
|-----------------|-------------------------|-------|------------|-------------------------|
| 浚 渫 船           | 1 時 間 30 m <sup>3</sup> | 1 艘   | —          | 古もの修繕使用                 |
| レ ー ル           | 6 kg                    | 15 km |            | 岩崎レール商會納め               |
| ト ロ             |                         | 200 臺 |            |                         |
| 發 動 機 付 ウ ィ ン チ |                         | 2 "   |            |                         |
| ホ イ ス ト         |                         | 1 "   | —          | 古もの                     |
| ミ キ サ ー         |                         | 1 "   | —          | "                       |
| 土 運 船           | 5 m <sup>3</sup> 積      | 6 艘   | 1 890      |                         |

5. 工事執行者 熊本縣
6. 計畫設計者 土木技師 小 引 掌
7. 工事監督者 土木技師 小 引 掌, 土木技手 野 田 淺 六
8. 施工方法 直 營
9. 起工年月 昭和 8 年 10 月
10. 竣工豫定年月 昭和 12 年